

教 人文地理学概論**教** 人文地理学

Introduction to Human Geography

KOGITA Toshihiko

小木田 敏彦

■授業の目的

選択科目なので高校で地理を習っていない大学生が少なくない。そこで、前期の授業では高校の地理に関する具体的なイメージを養ってもらおう。また、大学の専門科目としての地理学は中学や高校の地理とは異なる。そこで、後期の授業では地理学の歴史を講義する。

■授業の到達目標

前期の目標は社会科の科目なのに地形や気候が人々の暮らしにとって重要である理由を理解し、授業を行う上で地図や白地図が有効であることを理解することである。後期の目標は地理学が辿ってきた歴史の中で高校の地理が出来上がったことを理解することである。

■授業計画

〔前期〕

- 1 ケッペンの気候区分①ー熱帯・乾燥帯
- 2 ケッペンの気候区分②ー温帯・冷帯・その他
- 3 世界の大地形ー安定陸塊と造山帯
- 4 世界の風土①ーヨーロッパ
- 5 世界の風土②ー北アメリカ
- 6 世界の風土③ーオーストラリア
- 7 世界の風土④ー南アメリカ
- 8 世界の風土⑤ーアフリカ
- 9 世界の風土⑥ーユーラシア
- 10 アジアの風土①ー西アジア・中央アジア
- 11 アジアの風土②ー南アジア
- 12 アジアの風土③ー東南アジア
- 13 アジアの風土④ー東アジア
- 14 アジアの風土⑤ーアジアの中の日本
- 15 アジアの風土⑥ー日本

〔後期〕

- 1 地理思想の発達①
- 2 地理思想の発達②
- 3 近代地理学の誕生
- 4 近代地理学の傍流①
- 5 自然地理学と人文地理学の関係
- 6 交通革命と旅行者が見た「風景」
- 7 環境決定論に見る「東北」
- 8 ドイツ地政学ー忘れ去られたもうひとつの地理学
- 9 近代地理学の傍流②
- 10 集落と都市の地理学
- 11 近代地理学の傍流③
- 12 日本における近代地理学の発達
- 13 高度経済成長と日本の地理学①
- 14 高度経済成長と日本の地理学②
- 15 高度経済成長と日本の地理学③

■授業の方法

毎回授業の最初で作業を行ってもらおう。前期は各地の気温と降水量のデータから気候区を割り出した後、地域別に白地図完成を行う。後期は白地図完成ののちに講義を行う。

■予習・復習

特には定めない。

■成績評価の方法

平常点と定期試験の総合評価。毎回、小テストを課し、その得点を集計して平常点とする。実質的にはこの平常点で成績が決まると考えて欲しい。定期試験は基本的に救済措置とする予定である。

■教科書・参考書

毎回、帝国書院『新詳高等地図』を使用する。

■関連する科目

人文地理学、人文地理Ⅱ、自然地理Ⅰ・Ⅱ、地誌Ⅰ・Ⅱ